

## 強化選手の個人的活動・発信における「日本代表」の使用に関するガイドライン

セパタクロの日本における普及と国際大会代表チーム運営について公的に責任を有する団体として、その目的に向けた活動の効率と結果を最大化・説明責任の明確化と選手各個人の普及活動・プロとしての営業活動のメリットを両立させるため、日本セパタクロ協会執行部と強化部は、日本代表チームに選ばれて活動している選手に以下のガイドラインに基づいて各自の活動・発信を行うよう要請する。

1. インターネットあるいは印刷物による個人発信において自身が日本代表選手であることに言及する場合、タイトルおよびプロフィールのあたる表記は「日本代表」ではなく「日本代表選手」あるいは「日本代表プレイヤー」「ナショナルチームプレイヤー」「ナショナルチームメンバー」とする。またサイトや印刷物の場合、個人の活動・発信であることを適切な箇所に明示する。タイトルおよびプロフィールが上記に従って明示されていれば、記事内容では便宜上、「日本代表」と表して構わない。

2. SNS・個人メール発信等の名乗りの場合も項目1.のタイトルおよびプロフィールに関するガイドラインの部分に従う。

3. その他、個人的活動において、「日本代表を代表している」という誤解を受けない言動に留意する。

4. 日本代表に言及する活動・発信を外部に対し行う場合は、強化部にその旨を逐次報告する。個人として行う活動・発信自体は報告や強化部の許可を必要としない。報告は事後でも構わないが、速やかに行うよう留意する。尚、一般常識に照らしてプライベートな場や所属団体内部向けの場合も報告の必要は無い。

### 【＊報告先】

### 【＊報告の例】

#### ＊文例

「所属団体の活動を支援してくれている地元自治体に国際大会遠征の結果を報告しました。その際に印刷物を配布しました（何月何日）」

「＊＊テレビの番組＊＊（何月何日放送）に出演しました」

「日本代表選手と記した名刺を作成しました（実物の提出）」

「個人のオフィシャルブログを作成しました。URLは＊＊＊です」

5. 日本代表チームを代表する者として外部の行事や取材に関わることは、個人的活動・発信においては例外なく許可されない。

ドラフト作成者（註）

- ・選手から強化部への報告では、管理の観点で日付（活動が行われた日）が重要となる。

- ・協会・強化部としては一方で、強化選手の選出と落選の”公式な”日付をすべての選手について記録する必要が発生する。

- ・強化選手から落選した選手で、且つ協会登録者でも無くなった後で「元日本代表」等を名乗ることはコントロールできないが、この場合、「元」がついていれば問題ないと考えられる（サッカーなど他競技で事例多数）一方で、紛らわしい表記を使用された場合は、非会員なので基本的に対処は難しい。

- ・協会登録者のまま再度強化選手を目指している場合・目指していない場合で、紛らわしい表記の発信を行っている場合の対処方法について別途策定が必要。（現在のところ、これまで事例は発生していないと思われる）

==

作成者：牛尾

2013年11月4日